

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4473000349		
法人名	社会福祉法人 直心会		
事業所名	望箭荘グループホーム山国		
所在地	大分県中津市山国町守実57番地1		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①自然環境を生かし、季節ごとの景色を楽しんで頂ける行事やドライブによる散策などの機会を多く設けている。
②地元の食材を多く取り入れた食事の提供や、洗濯物干し・洗濯畳み・荘内の掃除など利用者様の個別の状態に応じた生活支援を行ない、役割を持つ事で意欲の向上や家庭で過ごしてきた生活を継続出来るように支援している。
③災害や緊急時の対応について、日々の訓練や行政・医療機関との連携を図り、早期の対応に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者と職員の馴染みの関係が、地域での生活歴を活かす回想法となり、利用者家族の安心にも繋がっている。
・利用者の個性や生活歴を主軸に、協力医のアドバイスを生かしたBPSDの対応・軽減が図られている。
・利用者の個性や症状に配慮された食卓の席順や、利用者と職員が同席しての食事内容の会話が、食事の楽しみに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を、職員が見やすい場所に掲示して朝の申し送りや職員会議で唱和し、理念の浸透に努めて、実践に活かしている。	事業所理念は、母体法人の理念と共に見やすい場所に掲示されている。理念に表現された、個々の利用者らしさを大切にした支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の食材購入や理容室などの地域のお店を利用し、地元の方との交流が持てるように努めている。	コロナ禍の為、日常的な外部との交流が出来ない状況が続いているが、地域の方が玄関先の花木の入れ替えに訪れたり、入居申し込み家族の相談支援を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方から認知症についての相談などがあれば、居宅支援事業所や包括支援センターなどを紹介したり、利用できるサービスの簡単な説明などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前にサービス内容や状況報告の書類を作成配布し、会議時に意見交換の時間を増やすことで、貴重な意見を頂くだけでなく、より良いサービス提供のあり方を話し合い検討している。	運営推進会議は書面对応で行われている。運営推進会議委員に事業所行事やインシデント事例を資料として送付、意見を集約し、結果の報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者からの情報提供や地域包括センター職員の相談やアドバイスを頂きながら、協力関係の維持に努めている。	担当の中津市介護長寿課職員とはメールでの連絡を行い、包括支援センター職員とは待機者や緊急入居相談、夜勤勤務体制の相談が行われ、事業所運営に活かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に係る指針を作成し職員への周知を図ると共に、安易に身体拘束を行わない支援を継続していく。	「利用者が安心するまで付き添う」を基本方針として、帰宅願望のある利用者への声掛けや対応の工夫、自身の所有する軽トラックに対する執着を、職員と一緒に確認して安心に繋げるなどの支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対応の規定を作成し、3ヶ月に一度会議を開催し事例検討を行う。課内研修にて虐待についての認識、意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について行政や関係機関に相談しながら必要性を確認し、活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を十分納得して頂ける様に説明を行っている。要望や意見を聞き入所後の不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プランの見直し時や面会時など機会あるごとに確認し、意向や要望等を確認し話し合う事でご利用者主体の支援、運営に努めている。	家族には2～3か月に1度、写真が添付された便りを送付している。毎月、利用料の支払いに事業所を訪れる家族も多く、利用者の様子を知らせ、希望や要望を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を行い、業務に関する改善点など様々な意見を聞き意見を反映に努めている。また、上司による個別の面談も実施している。	3か月に1度、ユニット毎の会議を開き、利用者支援や運営に対する意見や要望を聞く機会としている。職員意見や希望が、有給の取得や制服の整備に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休取得や資格取得への支援、職員交流の職場環境づくりに努めている。 上司による個別面談で希望部署の把握等。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り必要な研修に参加し、職員の資質向上に努めている。また、資格取得の為に個々の取り組みについて業務上の配慮や助成制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に所属しており交換実習や施設見学を計画している。また、意見交換を図っている。(リモートにて)意見交換で、参考にする点や改善やサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人やご家族と十分な面談を行い生活の在り方を検討する。また、事前に施設見学をして頂き、施設の雰囲気や生活の流れを把握して頂いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や面談時に現状やサービスの利用状況などを伺い、ご家族の意向を理解し介護相談や助言を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人の状況を的確に判断し、助言をすると共に必要と思われる内容には説明を行い、他の関係機関等のサービスの紹介を含めて対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本位の一方的な支援にならない様、本人の生活のペースに合わせた支援を実施している。職員も生活の中で、利用者様から知恵を頂くこともあり、共に生活を過ごせる様に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の置かれている環境を考慮し可能な範囲での家族支援について、利用者の希望を代弁し理解して頂いた上で、協力を依頼するように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊・外出は基本的に自由にして頂いている。(現状はコロナ禍で禁止状態) 面会時は、共に過ごせる場所を提供し、ご家族やご友人など大切な人たちとの時間を有意義に過ごせる様に努めている。	コロナ禍により、直接の面会や外部からの訪問が出来ない状況が続いているが、地元出身で利用者と年齢の近い職員が多く在籍し、日常会話の中で、地域の駅舎や商店街などの懐かしい話を近しい関係で語り合う場面がある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性や性格を把握し、ご利用者同士の間人間関係が円満にいく様配慮して、有意義に過ごせるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移動された方にも、情報提供をしたり、継続的に相談を受けたりして関係性を保つように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の表情・行動・言動などから、思いを汲み取り寄り添った支援に努めている。	管理者が、入居開始時に丁寧なアセスメントを取り記録されている。日常の支援や会話の中で、利用者の言葉や家族からも新たな思いが得られ、その情報は職員間での共有が図られている。	職員間で情報や思いの共有が行われているが、記録されていない。記録に残す事で、課題の解決策や介護計画立案への活用、経過や変化の確認の可視化が行われる事に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の担当ケアマネージャーからの情報を考慮し支援に生かしている。また、入居後もご本人やご家族に聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の個々の生活リズムを把握すると共に、趣味や特技を把握し支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の日常的な関わりの中での思いや意向を把握し、反映させるようにユニット会議や担当者会議で話し合い、プランの作成とサービスの向上に努めている。	健康維持に重点を置いた介護計画の作成に努めている。疾病の治療や療養支援の計画から、改善・治癒の経過を経て、予防重視に向けた計画に変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個別援助記録に時間毎に記録し、体調変化や気づきは申し送りを徹底し情報を共有しプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じた通院や送迎、買い物などの支援を柔軟に対応している。個別対応を心掛けご家族やご本人の満足度を高めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所としての地域資源に留まらず、個別の社会資源の活用を実現させるため、支援計画において、各利用者に応じたインフォーマルサービスを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人が希望する医療機関へ受診するように支援している。Dr.の紹介があれば他病院への受診支援も行っている。	事業所利用開始時に、利用者・家族の理解を得て、協力医への掛かりつけ医変更が行われている。受診は職員対応で行われ、協力医により、日常の健康管理や在宅酸素療法の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や健康診断にてご利用者様の状態や既往歴を把握している看護師や、法人内の看護師に助言を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前のご利用者様の生活状況やご希望を情報として提供し、入院や治療がスムーズに行えるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される前に早い段階で医師の意向を確認し、ご家族と充分なご相談をし納得した上での終末期を過ごして頂ける様に取り組んでいる。	事業所利用開始時に、事業所の重度化支援方針を伝えている。病状による入院支援や、身体面での全介助状況となれば、特別養護老人施設への住み替え支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に救急救命講習を受講させ急変時の対応を迅速に行えるように体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の緊急連絡網の作成、非常呼集訓練・避難訓練の実施。消防署の指導のもと総合訓練も実施し、避難時の食料備蓄などの体制も整えている。	事業所の災害リスクとなる水害想定での訓練や、火災対応・非常時呼集訓練、中津市のシェイクダウン参加が行われている。降雨量の多い時は、川の水位の状況に注意し、食事時間を早める等、早めの対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応の研修を行い、さり気ない言葉かけや対応の実践を行い人格を尊重した対応が行えるようにしている。プライバシー保護についても研修を行い理解を深めるように努めている。	職員が担当して、計画的な内部研修が行われている。利用者との気のおけない関係を保ちながら、個人情報や個々の関係性に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においてご利用者様個々の意思表示を大切にされたケアに心掛けている。意思表示が苦手な方に対しては、職員からの声掛けを行い、ご本人の意思が尊重出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課で、食事・トイレ・入浴の時間の変更等、ご本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望する服を着て頂き、希望の髪型を聞き地域の美容室でのカット等の支援を行っている。行事の際は、お化粧をしておしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みに合わせた個別の茶碗やお箸、湯呑を使用し、利用者様の好みに合わせた、メニューや味付け、地元の食材を使用し、献立を説明している。	法人の管理栄養士が立案した献立に沿って、手作りの食事が提供されている。職員も一緒に食事をし、職員のカップラーメンを羨望する利用者には、おやつ時に提供する等、食事がコミュニケーションの場にもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、不足している時は申し送りをして必要な支援を行なっている。栄養士に相談するなどして、補助栄養の摂取も支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、義歯の手入れ、うがいをの支援を行なっている。 義歯使用者は、毎晩義歯洗浄(ポリデント)の支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別支援記録の排泄の記録より排泄パターン把握し、声掛け等でトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄して頂ける様に支援している。	日中はトイレでの排泄を基本として支援している。共有空間に複数設置されたトイレでの排泄支援は、誘導や声掛けの必要な利用者、自身でトイレに行く利用者ともに、職員が見守り支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分摂取で便秘予防に努めている。排泄チェック表を活用し排便支援を行っている。医師より内服を処方され排便コントロール行なっている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。ご本人の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。入浴を頂ける様に個別にてご本人のペースに合わせて支援を行なっている。	週2回、午後の時間帯が入浴となっている。ほとんどの利用者が浴槽に浸かっている。病状によりシャワー浴をする利用者には、冬季は脱衣所を暖房で暖め、浴室も保温して、負担の少ない入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別のご利用者の生活パターンを観察し、ご本人の意向を尊重し支援を行なっている。昼寝・運動・レク・余暇活動の参加を行うことで安眠を促す支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の内服を薬情により用法・用量を把握し支援している。内服に変更があった場合は、内容を記録し、職員間で情報を共有する。変更後のご本人の状態変化は、迅速に主治医に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の個別の趣味や嗜好を把握し、それぞれの得意分野を把握し、余暇活動の支援を行なっている。お手伝いが出来る方にはお願いをして、お手伝い後には感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物などご利用者の希望にこたえられるように支援している。コロナ禍の為、人混みを避けて対応している。	利用者の状況に合わせた、事業所周辺の複数の散歩コースが考えられている。天気の良い日には、テラスに出て外気浴を楽しみ、今秋は、社用車に乗って満開のコスモス見学に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に職員付き添いの下で支払うようにしている。(コロナ禍前までは)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、都度対応し、年賀状を出すなどしてご家族と交流を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や光の調整、リビング・居室の清掃の徹底など気持ちよく過ごしていただく様に環境整備に努めている。季節によって、テラスでのおやつ時間をもうけて季節感が味わえる様に配慮を行っている。	毎年、共用空間で利用者と職員共同で干支作りを行っている。共用空間は、思い思いに過ごしたり、職員と昔の地域や懐かしい思い出話を語り合う場となっている。食事の席は、配慮の必要な利用者が嫌な思いをせずに食べられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置きテレビをゆっくりと見たりご利用者さん同士世間話を職員を交えて行い、日当たりのよい場所(テラス)でのティータイムを楽しんで頂く環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室なじみの時計や家族の写真、カレンダーなどを配置し、本人お好みに合わせて自由にレイアウト出来るように支援している。	ベッド柵にスポンジを巻き付けたり、移動の障害となる物を置かないなど、安全に配慮した居室作りに努めている。褥瘡予防のエアーマットや夜間利用するポータブルトイレ等、利用者の状況に合わせた備品も整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置しベッドに介助バーを取り付け、適切な福祉用具を活用し、安全に動作できるように環境を整得て対応している。		